

森づくりの

取組を募集中

「四国山の日賞」に応募を



平成二五年度「四国山の日賞」を四月一六日から募集しています。

この取組は、平成一六年一月一四日の「四国森づくりのシンポジウム」において、四国四県知事並びに四国森林管理局長が一堂に会し「四国森づくりに関する共同宣言」を行い、毎年一月一日を「四国山の日」と制定し、様々な取組を四国四県と局が連携して推進しています。(今年は一〇月に徳島県で開催予定)

これを記念しての取組のひとつとして、四国の森づくり等の取組を積極的に推進している団体等を「四国山の日賞」として募集・表彰しています。

部門は①多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進 ②木材の利用推進 ③森林環境教育活動の推進の三部門です。

今年の募集期間は**六月二十八日(金)**まで。各署等では、森づくり等の取組を積極的に推進している団体等に応募を勧めてください。

研究発表事例にまなぶ

香川所(20年度発表)

課題名「製品生産事業等における未利用材(端尺・枝条等)の有効活用について」

発表のあらまし

香川所管内の国有林は、その殆どが香川県内の主要都市からおよそ1時間の範囲でアクセスに恵まれている。存置型の保育間伐や製品生産事業において、未利用間伐材や林地残材等をまとめて未利用材と位置付け。20年度、保育間伐で4,100 m³、製品生産事業で3,600 m³ 合計7,700 m³の資源が現地に放置されることに。

協定の主な項目

森林整備目標

人工林における長伐期化と間伐により針広混交林へ誘導。

森林整備方法

協定者が連携して利用可能な間伐材を低コストで出材できる搬出方法の導入を推進。

森林施業に配慮した作業路網や施設の設置等。

協定者が一体となって間伐等森林施業が出来るよう配慮した路網及び施設の設置等。これらは協定者相互の利用が可能等。

今後の展開

協定者相互の利用が可能な路網、効率的な集材架線の施設等により、間伐材搬出等の低コスト化に期待。

森のキノコです



ウスキキヌガサタケ



アラゲキクラゲ



ムキタケ

キノコは、有機物を分解して生きています。

キノコは栄養のとり方により、枯れ木や落ち葉などの植物遺体の有機物を分解するもの。

生きている植物の根と共生関係をもち、菌根と呼ばれるものを形成するもの等がある。

今回の写真は、局ホームページ「四国の保護林と緑の回廊」に掲載しています。

(今後、随時掲載)

編集後記

風かおる5月。小学1年生のランドセル姿も軽やかに。春眠暁を・。体調に留意。